

2015年 第21回あかしないいまちサロン(講演会)

平成27年4月28日 10時から12時 明科公民館講堂於

参加者:83名(明科いいまちつくろうかい!!)



女性部の皆さんの手づくり草だんご・漬物



お茶を頂きながら夫々歓談



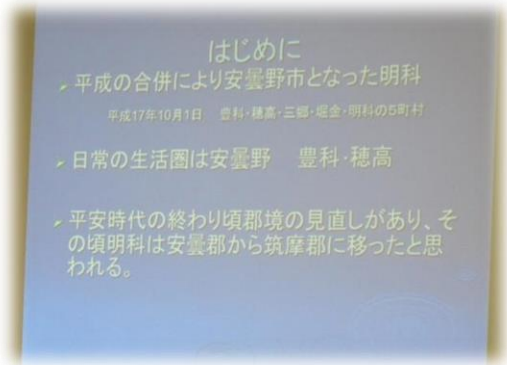
お茶を頂きながら暫し歓談



宮下さんの指揮・長崎産の伴奏により春風・花・鉄道唱歌の替え歌 我ら人生60からを全員で合唱



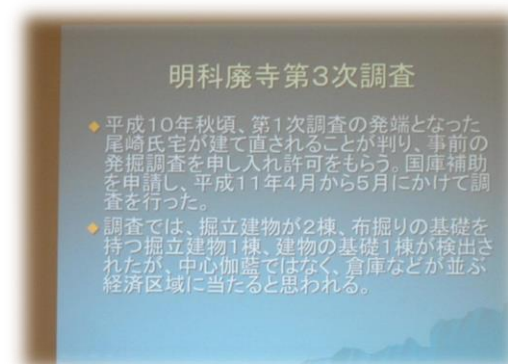
安曇野市文化財保護審議会委員、安曇野市文化課職員として埋蔵文化財関係、発掘調査を担当し、明科地域を中心とした郷土史研究者として多方面にて活躍している大澤慶哲さんを迎え「安曇にもどった明科」講演して頂いた。



明科付近の遺跡分布図



奈良県明日香村の川原寺復元模型



明科廃寺第3次調査



石堂付近の地籍図



明科廃寺と飛騨古川寿楽寺廃寺

- 明科廃寺出土の第1形式第2類軒丸瓦と寿楽寺廃寺出土第II型式軒丸瓦は同じ木型を使って作られたことがわかった。
- 木型の傷の具合から明科から寿楽寺へ木型が移動している。
- 寿楽寺廃寺からは「高家寺」と書かれた土器が出土している。
- 寿楽寺廃寺は高家郷にあり、「高家寺」の名で、郡内で最も早く作られた寺院であり、恐らく荒城郡の郡寺であったらしい。

- 安曇の高家郷と飛騨の高家郷という同じ郷名の地域に同じ木型を使った瓦が使用された古代寺院があった。
- 明科廃寺は安曇郡唯一の古代寺院であり、安曇郡の郡寺と思われる。

明科廃寺と飛騨古川寿楽寺廃寺



明科廃寺・寿楽寺廃寺の出土丸瓦



潮神明宮前1号墳からの出土

急速にさびれて行った明科

- 宮中の争いに敗れた安曇氏
- 阿曇氏は膳臣(高橋)氏と並んで、天皇の食膳奉仕することを世襲していたが、宮中での行事のことでしばしば膳臣氏と対立していたが、そのつど膳氏の主張が認められて阿曇氏は敗退し、延暦11年(792年)3月18日にはついに内膳奉膳安曇宿禰継成が佐渡に配流されるということになり、中央政界から失脚指定しまう。



最後に宮下さんの指揮でわが町を合唱

朝から汗ばむ陽気となり、大澤慶哲さんを迎えての講演会に83名の大勢の皆さん方が参加していただいた。今回のいいまちサロンは、「住んで良かったまち」明科地域の風土と歴史を学ぶ学習の場として大澤慶哲さんをお願い講演会を開催しました。7世紀後半に作られた明科廃寺、地方の豪族によって作られた初期の寺院で本格的なもの、付近には豪族の屋敷や郡の役所があったとのことで、発掘調査により明科の歴史が紐解かれ先人達の明科における歴史を学ぶ素晴らしい講演会となりました。